

明治廿四年五月三日

教乃栞全

東京 愛三社

020296-000-1

特16-419

教の栞

上田 将/著

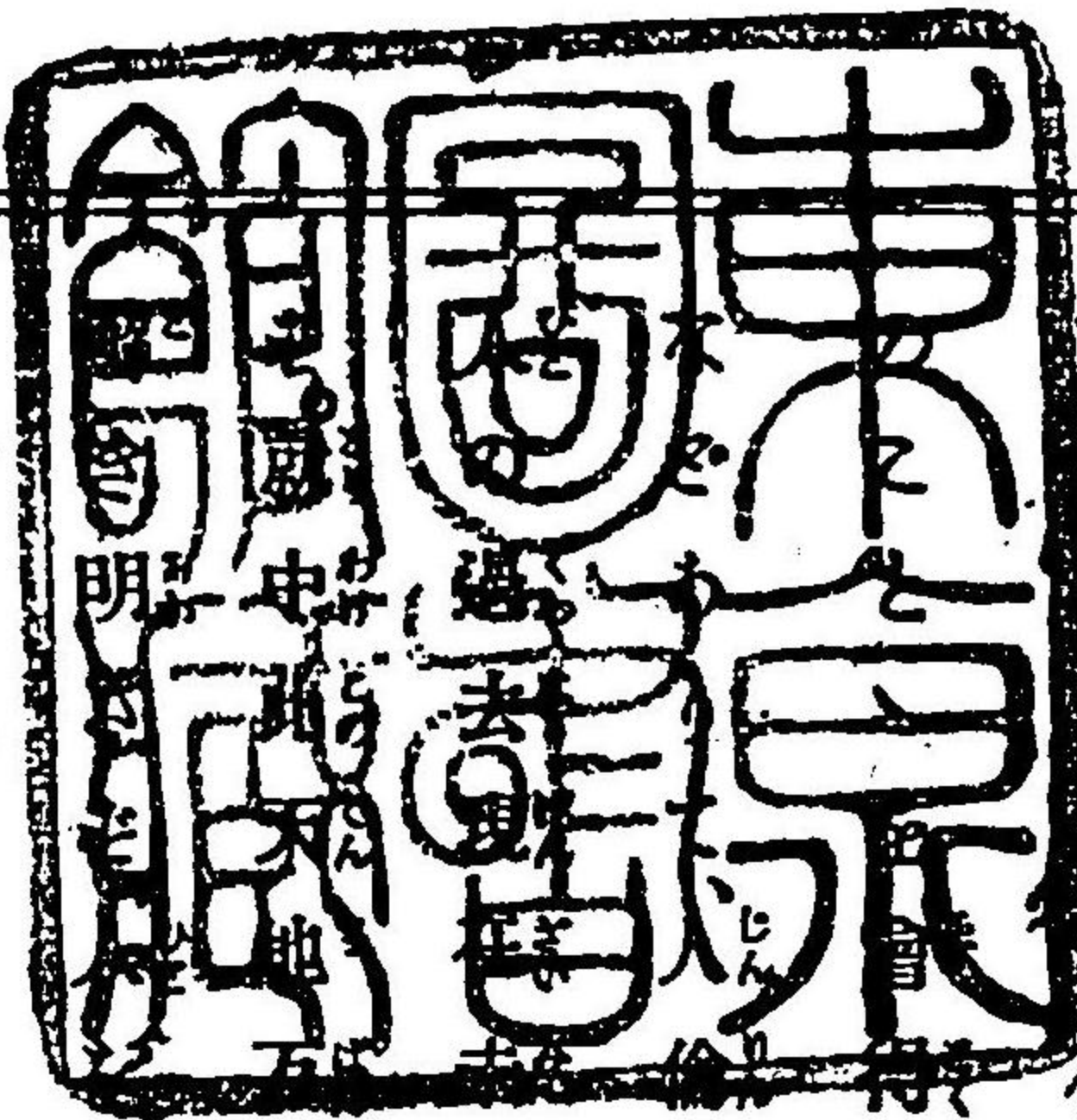
M24

ABI-0102



教の栞

人の萬物の長たるものなれば己の此世も生まれ  
來りて如何も成行くや  
と、此世も生れ存ふる目的と、此世を去りて如何も成行くや



五常の道、因果應報の理を説くといへども  
來の事も就きて、其説茫漠として明なら  
物を造りて、之を攝へ理る神のこと、些も  
して、常も慊らぬ心地せしむる、誰人も能  
く知る所なり。茲も天地万物を造れる神の事と、人の過去現  
在未來の事とを、明も示し、人の、此世に在りて盡すべき、眞の

道を教ふるものあり。我正教會の傳ふる所の、基督正教の、即ち是なり。今左に知らざる人々の爲に、聊か説明すべし。

抑、基督教會との、耶穌基督と、神の子、世の教主と、信ト、其教を守る人々の社會なり。イエススハリストスハ、此教會を立て己の天に升りたる後も、常に見えずして、世の末に至るまで之と偕ふらんことを約束して、之を保つが爲に必要なる條件を、悉く此に備へ給へり。今此教會の、世に傳ふる所の教ハ、乃ち神の子イエススハリストスが、曾て此世に降り給ひし時、親しく教へ給ひし者にして、世の學者智者の説く所のものとの、全く異りて、萬世に易らぬ眞理なり。獨り我國のみ

ならず、西洋各國よても、古より、僻める人々が、此ハリストスの教を、邪教なりとして、撲ち滅さんと試みしも、更に其甲斐なく、反りて、種々の邪教に打ち勝ち、今日獨り世に漫るを見ても、常人の口より出でたる教に、あらざるを知るに足るべし。

扱此ハリストスの教ハ、聖書と聖傳とあり。聖書との、預言者、又ハ使徒と稱ふる人々が、神の默示を受けて録せしものなり。ハリストスの生れぬ前、録せしものを、舊約聖書といひ、ハリストスの生れし後に録せしものを、新約聖書といふ。此の二の書を聖書と名づく。此聖書の外に、聖傳といふもの

あり。即ち聖書を録させ、古より代々口碑にて傳へ來りしものを、後世に至りて教會師父の集録せしものよしして、聖書と同トく、重要な者なり。聖書の眞偽も、此聖傳にて、判別せしはごよて、今日此聖傳の證據なかりせば、聖書の聖書たることも信ぜべからせ。且聖書の言の奥妙くして、凡人の悟り難るもの多きゆゑ、此聖傳の示によらざれば、其眞の意味を曉りかねて、誤り惑ふの恐あり。ハリストス教の聖書と聖傳との二の者によりて、始めて全きを保つべし。

ハリストス教の、右に述ぶる如く、聖書と聖傳とを合ひと雖も、其教の奥妙くして、錯綜たるものなれば、昔より教會の教

の大切の箇條を認めて、教を探らんと欲する人と、之を信ぜる人々の便に供せり。之を信經といふ。使徒の信經とて、ハリストスの門徒の作りしといふ信經なども、今の世に傳へれり。其中最も完全きもの、ハリストスの生れし後三百廿五年、ニケヤ府に開きし第一公會と、その後三百八十一年、コンスタンチノール府に開きし第二公會にて、議り定めし所の信經なり。抑も此の公會と、當時教會の牧師たる人にして、聖書の言を誤り解して、争を起し、信者の惑と生ぜしより、其争を裁判し、正しくハリストスの教を守らんとて、設けし會なり。該信經の十二箇條より成りて、ハリストス

教の主旨、悉くこれに含めり。凡てハリストス教を探らんとする者の、首に心得べきもの、此信經なり。されば、左に右信經の大意を、簡略に説明すべし。

第一條、我信ぞ、一の神父、全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を、造りし主と。

之を説明す、先だちて言ふべき事あり。ハリストス教にて、神の無始、無終、全知、全能、公義、至善にして、在らざる所なく、且其本体の唯一として、三位なりとす。一と父といひ、一と子といひ、一と聖神といふ。之を聖三者と名づく。此聖三者の、皆同等として、相分れず、相離れざるものなり。聖三者の關係は

就きていへば、父の、何者よりも生れず。子の、父より、世々の先に生れ、聖神の、父より出づ。此三位一体の理の、誠に奥妙きものなれば、漫々、人の智識と以て、推測るべからず。右信經の第一條より、専ら此聖三者の第一位たる神父の作用を述べて、一の神父、全能者、天と地、見ゆると見えざるの萬物と造れり、といふなり。見ゆるものとの、此世の萬物をいひ、見えざるものとの、天に在ます形なき神使、並に我等の、形なき靈魂の如きといふなり。神の、此世界を始め、天地間の有ると有らゆる萬物を、全能の作用にて、何も無き所より造りたまへり。此教より、始めて、天地萬物の造物主ありて、我等人間の元

祖も亦此の神に造られたる理由と知り得べし。序ながら、茲  
 又人間の造られたる事を述べし。神の天地万物を造りて  
 物皆備りたる後、土を以て人の肉身を造り、之れ又氣を嘘き  
 て、靈魂を入れ、之を万物の長となしてアダムと名づけ、その  
 後又神の婦エワを造りてアダムに配ひしめたり。是れ今日  
 天下億万の人類の元祖なり。此元祖の神又造られたる時に  
 の、一点の瑕なき善人なりしは、悪魔又誘ひ、神の誠を犯し  
 て自ら其性を傷け、其知識を味ましたり。此の元祖を誘ひて  
 罪に陥れたる、悪魔なるもの、神又造られたる神使の一  
 にして、初に善き神使なりしも、自ら高ぶりて神又背き、神の

寵愛を失ひて悪魔となりし者なり。罪又陥いらざる善き神  
 使の、天又ありて神を讃揚げ神の旨と奉トて人々を護り、此  
 悪魔の、人々を誘ひ罪又陥れんとして、其隙と窺ふなり。却  
 説元祖の、一たび罪又陥りて、其善性を傷つけたれば、神の、其  
 子孫の深く罪又溺るゝことを洞見して、後世又、救主を遣ひ  
 すべき約束を予へ給へり。アダムの子孫の、果して、造物主な  
 る真神を忘れて、罪に溺れしゆゑ、神の、大洪水を以て、之と罰  
 し、義人ノイの一族を除くの外、悉くの人間を滅して、世界を  
 浄め給ひしも、後に至りて、人々の、又真神を忘れ、此の廣き世  
 界の中、何の國よても、真の神を拜む者なく、僅に、神の特別の

思召にて選ばれたるイウダイヤ人のみ眞の神を拜み、頻に神の約束せし救主の臨むを俟てり。

第二條 又信ぜ、一の主、イエススハリストス、神の獨生の子、萬世の先父より生れ、光よりの光、眞の神よりの眞の神、生れし者よて、造られしに非ぜ。父と一体よして、万物彼よ造られ。第三條 我等人々の爲、又我等の救の爲よ、天より降り、聖神及童貞女マリヤより身を取り人となり。第四條 我等の爲に、ポンテイピラトの時、十字架に釘たれ、苦を受け葬られ。第五條 第三日に、聖書よ應ふて復活し。第六條 天よ升り、父の右よ坐し。第七條 光榮を顯して、生ける者と死せ

し者よ審判する爲に還來り、其國終なからんを。

第二條より第七條までの、専ら、神の三位の一なる神子の事と、神子が世を救ふが爲め、人となりて、世よ降りし事といふなり。即ち、第二條よ、此世よ、人となりて生れし、イエススハリストス、聖三者の第二位たる神子よして、父と同一、眞の神なる事を明すなり。

扱前に述べたる如く、人間の眞の神を忘れ、深く罪よ溺れて自ら救ふの力なきがゆゑ、神の子の之を救ひて、眞の神に就かしめんが爲め、天より降り、聖神の作用よて、童貞女マリヤの身よ宿り、人の身体を受け、神の性と人の性を含みて、世

む生れ給へり。救主イエススハリストスの即是なり。ハリ  
 トスのイウデヤ人に向ひて神の教を宣べ、己の乃ち神の約  
 束せし所の救主なる事を告げ、且奇跡を行ひて、己の神の子  
 なることを証せしむ、イウデヤ人の、其教を聞き、其行を見て  
 ハリストスを信せり。然るも、イウデヤ人の教師たる人々の  
 太くハリストスを妬み、人民を煽動て、ハリストスに背かし  
 め、當時イウデヤ國の司たる、ポンタイピラトの前に訴へて  
 謀反を企つる者となし、遂に之を磔刑と處せり。されど、斯く  
 ハリストスの十字架よかけられし、深き意味のある事に  
 て、即ちハリストスの己の罪なき身を犠牲となし、人々の罪

の爲に、之を神と獻げて、其義怒を解き、人々の罪を贖ひ、世を  
 救ふが爲なり。されば、ハリストスの、一旦、其身よて、苦を受け  
 死して葬られたるも、自らの罪なく、且永世の神の性の、之と  
 偕なせしに由り、遂に死に勝ちて、三日目よ復活し給へり。ハ  
 リストスの此世に生るゝ事より、苦を受け死して復活する  
 よ至るまでの状態の、皆舊約の預言者の言ひし所にして、悉  
 く其預言に符へり。ハリストスの、復活せし後、四十日の間、  
 之バ、己の門徒よ現れて、己の實よ復活せしを証し、其心  
 を啓き迪びき且勵して、四十日目よ天に升り、其人の性にて  
 神父の右に坐し、無上の榮を受け給へり。ハリストスの救贖



の功の、神の嘉する所となりて、神と和睦する途の開けたる  
 こと此よて知るべし。此の如く、ハリストス、今天又升りて  
 神の右に在ますといへども、神父より、此世を審判するの權  
 を委ねられたまふより、世の末より、光榮を顯はして再び  
 此世に臨み、審判を行ひ給ふべし。之を公審判といふ。人の死  
 する時の其靈魂、各審判を受け、生前の行に應じて賞罰を受  
 くるも、靈魂のみよて受くるが故よ、其賞罰未だ全からず。公  
 審判の時より、死して土よ歸りし肉體の、神の全能の作用に  
 て甦り、再び其靈魂と合して、賞罰を受け善人悪人の區別明  
 かよ分るゝなり。

第八條 又信を、聖神、主、生を施す者、父より出て、父及子と共  
 に拜まれ讃られ、預言者を以て、嘗て言ひしを。

此第八條の聖三者の第三位たる聖神の事を云ふなり。即ち  
 聖神の、父及子と一体の神にして、万物よ生を施す者たり。故  
 よ、父及子と共よ拜まれ讃らると云ふ。且舊約の預言者の述  
 べたる言の、此の聖神の默示よよりて、述べたるものなるゆ  
 ゑ茲に嘗て預言者と以て言へり、といふなり。

第九條 又信を、一の聖なる公なる使徒の教會と。

此第九條の教會の事を説き明すなり。前に述べたる如く、教  
 會なるもの、一の主イエスハリストスを信じて、之と首

に戴く者の社會なるゆゑ、固より唯一にして、二ある理なし  
 然るも、今ハリストス教と稱ふる者數派あれば、未だ深くハ  
 リストス教と知らざる者の、孰が正統のハリストス教なる  
 やと知るに苦むべし。茲に分派の來歴を述べん。初ハリス  
 トスの降れし後、大約八百年間の、分派の事なかりしも、一ハ  
 當時ハリストス教を受けたる羅馬國と希臘國との人情風  
 俗相異なるより、兩國の信徒、自然相親まざるの傾向ありし。ロ  
 マの主教たる「パーバ」即ち我國にて「羅馬法皇」と稱ふる者ハ  
 傲慢にして、尊大を極め、ハリストス教の精神に背くの舉動  
 多かりしより、グレチヤの主教等、頻々之を諫めしも、「パーバ」

ハ、其諫を納れず、反りて東の教會を誼ひて、之と分るゝに至  
 れり。我國にて天主教「カトリック」教、羅馬教、若くハ舊教と稱ふ  
 るものハ、乃ち此「羅馬」の「パーバ」に從ふの一分派なり。其後「パ  
 ーバ」の權力の盛なるに從ひ、ますます法に背くの行を爲し  
 遂にルーテルなる人起りて、其非を鳴らし、羅馬教會の弊を  
 矯めんとして、「パーバ」に破門せられ、やがて大爭亂を醸し、干  
 戈又訴へて、新教の一派を起せり。「プロテスタント」教と稱ふ  
 る者是なり。此新教の徒ハ、羅馬教の弊を矯めんとして、己の  
 欲するがまゝ、之を改めたるより、亦自らハリストス教の  
 眞意を誤り、各勝手、己の説を主張して、多くの分派を生ぜ

り。されば彼のロマ教と此新教との二派の共々惟一のハリ  
 ストス教會より岐れたるものにしてハリストス教の眞意  
 を守るものに非ざ。今日にも能くハリストス教の眞意を完  
 うして守れる者の世はグレチヤ教會と稱ふる、ハリストス  
 正教會あるのみ。此の眞のハリストス教會は、洗禮を受け  
 て、罪より清められし者のみ属するが故に、之を聖なる教會  
 といひ、又何の世、何の國にも、行へるべきものなるが故に、之  
 を公なる教會といひ、又初ハリストスの門徒たる使徒等の  
 立てたるものなるが故に、之を使徒の教會と稱ふるなり。

第十條 我認む。一の洗禮、以て罪の赦を得るを。

此第十條の、ハリストス教會は必要なる、洗禮の事を説き明  
 すなり。ハリストスは、己の死を以て、人々の罪を贖ひ、而して  
 後世に、此贖に與からんと欲して、ハリストスを信し、教會に  
 入る者に、先づ洗禮を以て其罪を清めしめ、以て神と復和  
 せしむる事を定めたり。此の洗禮の罪を清むる効用の、奧妙  
 さが故に、教會にて之を機密と名づく。正教會に、機密と稱  
 ふる者、此洗禮機密を合せて、七あり。洗禮を受けて罪を清め  
 られたる者の体は、聖なる膏を傳けて、生れ更りたる靈魂に  
 聖神の恩寵を授くる式あり、之を傳膏機密といふ。又ハリス  
 トスの言に従ひ、麵包を化してハリストスの眞の体となし

葡萄酒を化して、ハリストスの眞の血となし、之を信者も領けしむるの機密あり之を聖体機密といふ。此機密の最も奥妙くして、亦最も大切の機密なり。又正教會も、神品と稱ふる者あり。主教、司祭、補祭の三職是なり。信者も教誨し、機密を行ひ、教會を治るの權利の、此神品に属す。人と此位も登すの機密を、神品機密といふ。主教獨り之を行ふ。凡て人の罪過なき者として、わらざれば、罪を犯せし者をして、悔い改めしめ、並に其罪を赦すが爲め設けたる機密あり、之と痛悔機密といふ。又男女結婚する時、之は神の祝福を降すが爲め設けたるの機密あり、之を婚配機密といふ。又聖傳機密として、信者の病に

罹りて、危篤なる場合も、其病を愈し、並せて其靈魂の罪を赦すの機密あり。此七の機密の、皆聖書の言に基くものにして、古代より行はれたるものなり。

第十一條 我望む死者の復活。 第十二條 並に來世の生命を。アミン。

ハリストスの再び此世に臨む時に、前に述べたる如く死者の肉体の神の全能の作用にて甦り、再び其靈魂と合して審判を受く。而して、此審判の後には、此の見ゆる世界の、火にて熾き亡されて、新なる世界となるべし。茲に來世の生命とあるは、此公審判後の時の事をいふなり。此來世は、人の身

と靈との靈妙不死の者となりて、此世に於けるが如く、衣食を要せず、善人の天國に在りて永く、福を受け、悪人の暗き處に在りて、苦を受くべし。

右の信經の大意なり。此信經の、僅なる言の内、ハリストス教の主旨を含めたるものゆゑ、聖書の言を引き又聖傳の證に照して、廣く説き明されば其意味を明にすること能はば。就中、神の三位一体の道理、神の子イイススハリストスの此世より人となりて生れ給ひし理由、ハリストスの死よて、人の罪より贖われし事等の、逆も、此小冊子みて説了すこと能はば。尙詳よ、此道理を探らんと欲せば、正教會の傳教者に

就きて、質問し、又ハ正教會出版の書を繕きて研究ぶべし。能く此信經の意味を曉りて、信仰の念を起さば、洗禮を受けて、教會に入りハリストスの教と神の誠とを守り、教會の定むる所の規則に従ひ熱心よして神に祈るべし。然らば諸罪を赦されて、心安く此世を送り死して後ハ、神の恵よて、天の福を受け來世よハ、神使聖人等と偕に神の榮の輝く天國よありて、永く言ひ盡されぬ樂を享くべし。

右のいと拙き筆にて綴りしものなれど、讀者之と繕くの時慈深き神の恵に、其心を照されて、迷を覺し、悟を開きて、眞の神あるを知り、眞の教よ就きて、救はるゝ人の數よ入り、天よある生命の書よ其名を録されんことを祈る。

2E-97

明治廿四年五月一日印刷  
明治廿四年五月四日出版

著者兼  
發行者

上田將

東京市神田區駿河台  
東紅梅町九番地

印刷者 岡本利三郎

東京市麹町區麹町  
十丁目四番地

發行所 愛友社

東京市神田區駿河臺  
北甲賀町十三番地

